全日本学生王座決定戦 フェンシング部が大活躍 サーブル団体戦 アベック優勝

全日本学生フェンシング王座決定戦が6月8日、9日、中大第2体育館で行われ、男女ともサーブル団体で優勝。また、男子はフルーレ、エペ団体でも準優勝するなど大活躍だった。
この大会は、男子が関東、関西、東北、九州の各リーグの上位校によるトーナメント、女子が関東、関西リーグの上位校によるリーグ戦方式。
男子サーブルは、初戦で立命館大と対戦。勢いのあるリズミカルな動きで攻め、45-28で圧勝。決勝戦ではライバルの法政大と対戦し、山本幸治主将（商4・武生商高）のスピードのある攻撃と持ち前の精神力でチームワークを生かした戦いぶりを見せ45-30で快勝した。一人ひとりが自分の“仕事”をしっかりこなし、チームワークを軸とするプレーが生かされた。
女子サーブルは初戦で同志社大に快勝し勢いをつかみ、続く第2戦でも中京大に圧勝。第3戦（決勝）で日体大を下して昨年2位のうっぷんを晴らした。齊野純子主将（商4・鹿児島南高）は「気を抜かずに昨年以上の成績を挙げられるように頑張りたい」と今後の抱負を語ってくれた。

（佐山 美貴・文2）
〔7月15日/ニュース専修16面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

期待大きい新人戦優勝 優秀選手に中川（和）、波多野 関東大学バスケットボール

第42回関東大学バスケットボール新人戦が6月16日から23日まで代々木第2体育館他で行われ、専大（男子）は初優勝を果たした。

同大会は1、2年次生が出場。専大は優秀選手に選ばれた中川和之（豊浦高・経済2）、波多野和也（静岡学園高・経営2）ら2年次生と、新人王に輝いた伊藤孝志（福大大濠高・商1）をスターティングメンバーに起用し、準々決勝まで全て100点ゲームで圧勝。準決勝は日体大相手に69-55とロースコアでの強さも見せた。

「チーム全体のモチベーションが高く、最後まで集中出来た」と新関光一監督が語るように、成長した姿を決勝の青学大戦でも見せる。試合序盤、中川（和）が負傷するアクシデントもありながら、専大は「高さ」と「速さ」を生かした多彩な攻撃でペースを掌握。中盤、青学大の連続3Pシュートなどで1点差まで詰め寄られるも、91-69の大差で快勝した。

新人戦で優勝するということは、今後の活躍が約束されたも同じこと。更なる飛躍を遂げるべく、専大バスケットはラン＆ガンで突っ走る。

（宮川 亮佑・文3）

〔7月15日/ニュース専修16面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

田中 世界選手権出場へ 全日本選抜レスリングフリー、120kg級初優勝

アジア大会、世界選手権代表選考会を兼ねた全日本選抜レスリング選手権が6月12日から14日まで代々木第2体育館他で行われ、フリースタイル120kg級で出場した田中章仁（経済2・三井高）が昨年12月の全日本選手権に続き見事初優勝した。

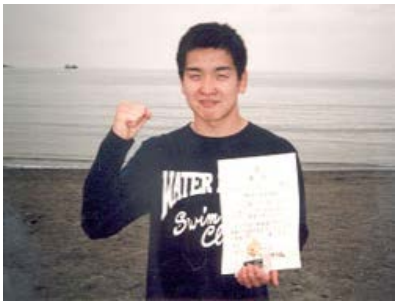
田中は順調に勝ち進み、決勝戦の相手は昨年この大会で優勝した山梨学院大の藤田選手。試合序盤に先制されるものの、持ち前のバランス感覚とパワーで逆転し、結果は大差での優勝。試合を終えて「優勝出来てうれしいです。今日は自信を持ってタックルに入れました。さらに実力をつけ早く世界にチャレンジしてみたいです」と振り返った。

今回の優勝により田中は世界選手権と釜山アジア大会の代表選手に決定した。

（高橋奈津子・文2）
〔7月15日/ニュース専修16面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

東島一生が連覇 オープンウォータースイミング5キロ



オープンウォータースイミング（遠泳）のジャパンオープンが6月23日、千葉県館山市北条中央海岸沖で行われ、男子5キロの部に出場した東島一生（法3・沼津学園高）が42分12秒の好タイムで、昨年に続き2連覇を成し遂げた。遠泳に取り組みはじめてまだ2年目ながら、昨年記録した自らのタイム（55分44秒）を10分以上も縮め、成長ぶりを十分発揮。今大会では「波をどう生かして泳ぐか、目印となるブイまでの最短距離をいかに無駄なく泳ぐかを常に考えていた」と語る。

2連覇については「うれしい。海での練習も重ね、5キロの種目には自信も出てきた。遠泳でいい結果が出せたので競泳で頑張りたい」と語る東島。荒波に揉まれた泳ぎはプールでも力強く発揮されるだろう。

（宮川 亮佑・文3）

〔7月15日/ニュース専修16面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.

道慶 知子が優勝 ダンロップカップ 神奈川オープン テニス

ダンロップカップ神奈川オープンテニスが6月19日から23日まで荏原湘南スポーツセンターで行われた。プロ選手も多数出場したこの大会で道慶知子（経済3・四天王寺高）が優勝を果たした。道慶は順調に駒を進め、準決勝で小森ひろ子（島津製作所）と対戦。苦手とする相手だったが、ゲーム終盤から粘り強く攻め、セットカウント2-1でこの一戦を制した。

続く決勝戦は竹原こころ（パームインターナショナルアカデミー）と対戦。1セット目は決勝ということもあり緊張していたが、どうしても勝ちたいという強い意志と持ち前の粘り強さで7-6と先取。そのままの勢いで続く2セット目も6-1と奪って決めた。

次はコリアウーメンズサーキット1（韓国）に出場する。「世界レベルの試合でも活躍したい」と抱負を語ってくれた。

（幸脇 健太・文2）
〔7月15日/ニュース専修16面〕

Copyright(C) 2007 SENSHU UNIVERSITY All Rights Reserved.